



# システム構成APIメソッド Element Software

NetApp  
November 12, 2025

# 目次

システム構成APIメソッド	1
DisableBmcColdReset	1
パラメータ	1
戻り値	1
リクエスト例	1
応答例	1
バージョン以降の新機能	2
クラスタSshを無効にする	2
パラメータ	2
戻り値	2
リクエスト例	2
応答例	2
バージョン以降の新機能	3
Snmpを無効にする	3
パラメータ	3
戻り値	3
リクエスト例	3
応答例	4
バージョン以降の新機能	4
BmcColdReset を有効にする	4
パラメータ	4
戻り値	4
リクエスト例	5
応答例	5
バージョン以降の新機能	5
クラスタSshを有効にする	5
パラメータ	5
戻り値	6
リクエスト例	6
応答例	6
バージョン以降の新機能	7
Snmpを有効にする	7
パラメータ	7
戻り値	8
リクエスト例	8
応答例	8
バージョン以降の新機能	8
ビン割り当てプロパティの取得	8
パラメータ	9

戻り値 .....	9
リクエスト例 .....	9
応答例 .....	9
バージョン以降の新機能 .....	11
クラスタSsh情報を取得する .....	11
パラメータ .....	11
戻り値 .....	11
リクエスト例 .....	11
応答例 .....	12
バージョン以降の新機能 .....	12
クラスター構造を取得する .....	12
パラメータ .....	13
戻り値 .....	13
リクエスト例 .....	13
応答例 .....	13
バージョン以降の新機能 .....	13
GetFipsレポート .....	14
パラメータ .....	14
戻り値 .....	14
リクエスト例 .....	14
応答例 .....	14
バージョン以降の新機能 .....	15
GetLldpConfig .....	15
パラメータ .....	15
戻り値 .....	15
リクエスト例 .....	16
応答例 .....	16
GetLldpInfo .....	16
パラメータ .....	16
戻り値 .....	16
リクエスト例 .....	17
応答例 .....	17
バージョン以降の新機能 .....	17
詳細情報の参照 .....	17
GetNodeFipsDrivesReport .....	17
パラメータ .....	17
戻り値 .....	17
リクエスト例 .....	18
応答例 .....	18
バージョン以降の新機能 .....	18
GetNtplInfo .....	19

パラメータ	19
戻り値	19
リクエスト例	19
応答例	19
バージョン以降の新機能	20
NVRAM情報を取得する	20
パラメータ	20
戻り値	20
リクエスト例	20
応答例	21
バージョン以降の新機能	21
詳細情報の参照	21
保護ドメインレイアウトの取得	21
パラメータ	21
戻り値	21
リクエスト例	21
応答例	22
バージョン以降の新機能	23
リモートログホストの取得	23
パラメータ	23
戻り値	23
リクエスト例	24
応答例	24
バージョン以降の新機能	24
詳細情報の参照	24
GetSnmpACL	25
パラメータ	25
戻り値	25
リクエスト例	25
応答例	25
バージョン以降の新機能	26
SnmpInfo の取得	26
パラメータ	26
戻り値	26
リクエスト例	27
応答例	27
バージョン以降の新機能	28
詳細情報の参照	28
GetSnmpState	28
パラメータ	28
戻り値	28

リクエスト例	29
応答例	29
バージョン以降の新機能	30
詳細情報の参照	30
SnmpTrapInfo を取得する	30
パラメータ	30
戻り値	30
リクエスト例	31
応答例	31
バージョン以降の新機能	31
SSL証明書を取得する	32
パラメータ	32
戻り値	32
リクエスト例	32
応答例	32
バージョン以降の新機能	33
リスト保護ドメインレベル	33
パラメータ	34
戻り値	34
リクエスト例	34
応答例	34
バージョン以降の新機能	36
SSL証明書の削除	36
パラメータ	36
戻り値	36
リクエスト例	36
応答例	36
バージョン以降の新機能	36
ネットワーク設定をリセット	36
パラメータ	37
戻り値	37
リクエスト例	37
応答例	37
バージョン以降の新機能	37
補足Tls暗号をリセットする	37
パラメータ	37
戻り値	37
リクエスト例	37
応答例	38
バージョン以降の新機能	38
クラスター構造の設定	38

パラメータ	38
戻り値	38
リクエスト例	39
応答例	39
バージョン以降の新機能	39
LldpConfig の設定	39
パラメータ	39
戻り値	40
リクエスト例	40
応答例	40
NtpInfo の設定	41
パラメータ	41
戻り値	41
リクエスト例	41
応答例	42
バージョン以降の新機能	42
保護ドメインレイアウトの設定	42
パラメータ	43
戻り値	43
リクエスト例	43
応答例	45
バージョン以降の新機能	46
リモートログホストの設定	46
パラメータ	46
戻り値	46
リクエスト例	47
応答例	47
バージョン以降の新機能	47
詳細情報の参照	47
SnmpACLの設定	47
パラメータ	48
戻り値	48
リクエスト例	48
応答例	49
バージョン以降の新機能	49
詳細情報の参照	49
SnmpInfo の設定	49
パラメータ	49
戻り値	50
SNMP v3 を有効にしたリクエストの例	50
SNMP v2 を有効にしたリクエストの例	51

応答例 .....	51
バージョン以降の新機能 .....	52
SnmpTrapInfo の設定 .....	52
パラメータ .....	52
戻り値 .....	53
リクエスト例 .....	53
応答例 .....	53
バージョン以降の新機能 .....	54
SSL証明書の設定 .....	54
パラメータ .....	54
戻り値 .....	54
リクエスト例 .....	55
応答例 .....	56
バージョン以降の新機能 .....	56
SnmpSendTestTraps .....	56
パラメータ .....	56
戻り値 .....	56
リクエスト例 .....	57
応答例 .....	57
バージョン以降の新機能 .....	57
テストアドレスの可用性 .....	57
パラメータ .....	57
戻り値 .....	58
リクエスト例 .....	58
応答例 .....	58
バージョン以降の新機能 .....	59

# システム構成APIメソッド

## DisableBmcColdReset

使用することができます `DisableBmcColdReset` クラスター内のすべてのノードのベースボード管理コントローラー (BMC) を定期的のリセットするバックグラウンド タスクを無効にする方法。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータがありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

Name	説明	タイプ
cBmcリセット時間 (分)	リセット間隔の時間を返します。 コマンドが完了した後、間隔は常に 0 になります。	integer

### リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "DisableBmcColdReset",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

### 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "cBmcResetDurationMinutes": 0
  }
}
```



## バージョン以降の新機能

12.0

### クラスタ**Ssh**を無効にする

使用することができます `DisableClusterSsh` ストレージ クラスター全体の SSH サービスを無効にする方法。ストレージ クラスターにノードを追加すると、新しいノードはこのクラスター全体の設定を継承します。

#### パラメータ

このメソッドには入力パラメータがありません。

#### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

Name	説明	タイプ
結果	ストレージ クラスターの SSH サービスのステータス、SSH が無効になるまでの残り時間、および各ノードの SSH サービスのステータスを含む JSON オブジェクト。	JSONオブジェクト

#### リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "DisableClusterSsh",
  "params": {
  },
  "id" : 1
}
```

#### 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result" : {
    "enabled": true,
    "timeRemaining": "00:43:21",
    "nodes": [
      {
        "nodeID": 1,
        "enabled": true
      },
      {
        "nodeID": 2,
        "enabled": true
      },
      {
        "nodeID": 3,
        "enabled": false
      },
      {
        "nodeID": 4,
        "enabled": false
      } ]
    }
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

10.3

## Snmpを無効にする

使用することができます `DisableSnmp` クラスター ノードで SNMP を無効にする方法。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータがありません。

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

### リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "DisableSnmp",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "result" : {},
  "id" : 1
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

## BmcColdReset を有効にする

使用することができます `EnableBmcColdReset` クラスター内のすべてのノードのベースボード管理コントローラー (BMC) を定期的のリセットするバックグラウンド タスクを有効にする方法。

## パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
timeout	BMCリセット操作間の時間 (分)。	integer	20160分	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

Name	説明	タイプ
cBmcリセット時間 (分)	リセット間隔の時間を返します。コマンドが完了した後、間隔は常に 0 になります。	integer

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例ようになります。

```
{
  "method": "EnableBmcColdReset",
  "params": {
    "timeout": 36000
  },
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "cBmcResetDurationMinutes": 36000
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

12.0

## クラスタ**Ssh**を有効にする

使用することができます `EnableClusterSsh` ストレージ クラスター内のすべてのノードで SSH サービスを有効にする方法。

## パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
duration	SSH サービスが有効なままになる時間。	string	なし	はい

## 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
結果	ストレージ クラスターの SSH サービスのステータス、SSH が無効になるまでの残り時間、および各ノードの SSH サービスのステータスを含む JSON オブジェクト。	JSONオブジェクト

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "EnableClusterSsh",
  "params": {
    "duration" : "02:00:00.00"
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result" : {
    "enabled": true,
    "timeRemaining": "00:43:21",
    "nodes": [
      {
        "nodeID": 1,
        "enabled": true
      },
      {
        "nodeID": 2,
        "enabled": true
      },
      {
        "nodeID": 3,
        "enabled": false
      },
      {
        "nodeID": 4,
        "enabled": false
      } ]
    }
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

10.3

## Snmpを有効にする

使用することができます EnableSnmp クラスター ノードで SNMP を有効にする方法。 SNMPを有効にすると、アクションはクラスタ内のすべてのノードに適用され、渡された値は以前の呼び出しで設定されたすべての値を置き換えます。 `EnableSnmp`。

### パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
snmpV3有効	true に設定すると、クラスター内の各ノードで SNMP v3 が有効になります。 false に設定すると、SNMP v2 が有効になります。	ブーリアン	false	いいえ

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "EnableSnmp",
  "params": {
    "snmpV3Enabled" : "true"
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {}
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

## ビン割り当てプロパティの取得

使用することができます `GetBinAssignmentProperties` データベース内のビン割り当てプロパティを取得するメソッド。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

Name	説明	タイプ
プロパティ	データベース内の現在のすべての ビン割り当てのプロパティの詳細 を示します。	binAssignmentProperties配列

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetBinAssignmentProperties",
  "params": {
  },
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "properties": {
      "algorithmRuntimeMS": 1105,
      "areReplicasValid": true,
      "binCount": 65536,
      "isBalanced": true,
      "isStable": true,
      "isWellCoupled": false,
      "layout": [
        {
          "protectionDomainName": "1",
          "services": [
            {
              "budget": 7281,
```



```

        "serviceID": 16
    },
    {
        "budget": 7281,
        "serviceID": 19
    },
    {
        "budget": 7281,
        "serviceID": 24
    }
]
},
{
    "protectionDomainName": "2",
    "services": [
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 17
        },
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 20
        },
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 22
        }
    ]
},
{
    "protectionDomainName": "3",
    "services": [
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 18
        },
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 21
        },
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 23
        }
    ]
}

```

```

    ],
    "numSwaps": 0,
    "numUpdatingBins": 0,
    "protectionDomainType": "node",
    "reason": "Final",
    "replicationCount": 2,
    "requestRebalance": false,
    "serviceStrandedCapacities": [],
    "timePublished": "2020-04-02T18:34:07.807681Z",
    "validSchemes": []
  }
}
}

```

## バージョン以降の新機能

12.0

## クラスタSsh情報を取得する

使用することができます `GetClusterSshInfo` ストレージ クラスター全体の SSH サービスのステータスを照会するメソッド。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータがありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

Name	説明	タイプ
結果	ストレージ クラスターの SSH サービスのステータス、SSH が無効になるまでの残り時間、および各ノードの SSH サービスのステータスを含む JSON オブジェクト。	JSONオブジェクト

### リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetClusterSshInfo",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result" : {
    "enabled": "true",
    "timeRemaining": "00:43:21",
    "nodes": [
      {
        "nodeID": 1,
        "enabled": true
      },
      {
        "nodeID": 2,
        "enabled": true
      },
      {
        "nodeID": 3,
        "enabled": false
      },
      {
        "nodeID": 4,
        "enabled": false
      } ]
    }
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

10.3

## クラスター構造を取得する

使用することができます `GetClusterStructure` 現在のストレージ クラスター構成情報をバックアップする方法。この方法の実行中にストレージ クラスターの構成が変更される

と、構成のバックアップの内容は予測できなくなります。このデータをテキスト ファイルに保存して、他のクラスターに復元したり、災害発生時に同じクラスターに復元したりできます。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータがありません。

## 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
結果	現在のストレージ クラスターの構成情報を含む JSON オブジェクト。	<a href="#">クラスター構造</a>

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetClusterStructure",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result" : <clusterStructure object containing configuration
information>
}
```

## バージョン以降の新機能

10.3

# GetFipsレポート

使用することができます `GetFipsReport` ストレージ クラスター内のすべてのノードの FIPS 140-2 暗号化機能のサポート状態を確認する方法。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータがありません。

## 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
結果	各ノードの FIPS 140-2 機能サポートのステータスと、クエリに応答しなかった各ノードのエラー情報を含む JSON オブジェクト。	<a href="#">fipsレポート</a>

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetFipsReport",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "nodes": [
      {
        "nodeID": 1,
        "fipsDrives": "None",
        "httpsEnabled": true
      },
      {
        "nodeID": 3,
        "fipsDrives": "None",
        "httpsEnabled": true
      }
    ],
    "errorNodes": [
      {
        "nodeID": 2,
        "error": {
          "message": "The RPC timed out.",
          "name": "xRpcTimeout"
        }
      }
    ]
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

10.3

## GetLldpConfig

使用することができます `GetLldpConfig` ストレージ クラスターの各ノードのリンク層検出プロトコル (LLDP) 構成を取得する方法。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
lldpConfig	ストレージ クラスターの LLDP 構成に関する情報。	JSONオブジェクト

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetLldpConfig",
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": null,
  "result": {
    "lldpConfig": {
      "enableLldp": true,
      "enableMed": false,
      "enableOtherProtocols": true
    }
  }
}
```

# GetLldpInfo

使用することができます `GetLldpInfo` ストレージ クラスターの各ノードまたは個々のストレージ ノードのリンク層検出プロトコル (LLDP) 構成を取得する方法。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
lldpInfo	ストレージ クラスターの各ノードのシャーシ、インターフェイス、およびネイバー LLDP 設定に関する情報。	JSONオブジェクト

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetLldpInfo",
  "id" : 1
}
```

## 応答例

この応答例は長いため、補足トピックに記載されています。

## バージョン以降の新機能

11.0

## 詳細情報の参照

[GetLldpInfo](#)

# GetNodeFipsDrivesReport

使用することができます `GetNodeFipsDrivesReport` ストレージ クラスター内の単一ノードの FIPS 140-2 ドライブ暗号化機能のステータスを確認する方法。このメソッドは、個々のストレージ ノードに対して実行する必要があります。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータがありません。

## 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。



Name	説明	タイプ
fipsドライブ	<p>このノードの FIPS 140-2 機能のサポートのステータスを含む JSON オブジェクト。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし: ノードは FIPS に対応していません。</li> <li>部分的: ノードは FIPS 対応ですが、ノード内のすべてのドライブが FIPS ドライブではありません。</li> <li>準備完了: ノードは FIPS 対応であり、ノード内のすべてのドライブは FIPS ドライブです (またはドライブが存在しません)。</li> </ul>	string

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetNodeFipsDrivesReport",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "fipsDrives": "None"
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

11.5

# GetNtpInfo

使用することができます `GetNtpInfo` 現在のネットワーク タイム プロトコル (NTP) 構成情報を取得する方法。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータがありません。

## 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
サーバ	NTPサーバのリスト。	文字列配列
ブロードキャストクライアント	クラスター内のノードがブロードキャスト NTP メッセージをリッスンしているかどうかを示します。 有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• true</li><li>• false</li></ul>	ブーリアン

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetNtpInfo",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {
    "broadcastclient" : false,
    "servers" : [ "us.pool.ntp.org" ]
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

## NVRAM情報を取得する

使用することができます `GetNvramInfo` 各ノードからNVRAMカードに関する情報を取得する方法。

### パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
力	クラスター内のすべてのノードで正常に実行するには、このメソッドに force パラメータを含める必要があります。	ブーリアン	なし	はい

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

Name	説明	タイプ
nvram情報	NVRAMカードで検出されたイベントとエラーの配列。	JSONオブジェクト

### リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetNvramInfo",
  "params": {
    "force": true
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

この応答例は長いため、補足トピックに記載されています。

## バージョン以降の新機能

9.6

## 詳細情報の参照

[NVRAM情報を取得する](#)

## 保護ドメインレイアウトの取得

使用することができます `GetProtectionDomainLayout` 各ノードがどのシャーシとどのカスタム保護ドメインに属しているかを含む、クラスターのすべての保護ドメイン情報を返すメソッド。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

Name	説明	タイプ
保護ドメインレイアウト	各ノードとそれに関連付けられた保護ドメインのリスト。	JSONリスト" <a href="#">ノード保護ドメイン</a> "オブジェクト。

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetProtectionDomainLayout",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "protectionDomainLayout": [
      {
        "nodeID": 1,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "QTF CR2914008D",
            "protectionDomainType": "chassis"
          },
          {
            "protectionDomainName": "Rack-1",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      },
      {
        "nodeID": 2,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "QTF CR291500EA",
            "protectionDomainType": "chassis"
          },
          {
            "protectionDomainName": "Rack-1",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      },
      {
        "nodeID": 3,
        "protectionDomains": [
          {
```

```

        "protectionDomainName": "QTF291500C3",
        "protectionDomainType": "chassis"
    },
    {
        "protectionDomainName": "Rack-2",
        "protectionDomainType": "custom"
    }
]
},
{
    "nodeID": 4,
    "protectionDomains": [
        {
            "protectionDomainName": "QTF291400E6",
            "protectionDomainType": "chassis"
        },
        {
            "protectionDomainName": "Rack-2",
            "protectionDomainType": "custom"
        }
    ]
}
]
}
}

```

## バージョン以降の新機能

12.0

## リモートログホストの取得

使用することができます `GetRemoteLoggingHosts` 現在のログ サーバーのリストを取得する方法。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

Name	説明	タイプ
リモートホスト	転送されたログ情報を受信するように構成されたホストの IP アドレスとポート情報のリスト。	<a href="#">ログサーバー配列</a>

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "id": 3386609,
  "method": "GetRemoteLoggingHosts",
  "params": {}
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 3386609,
  "result": {
    "remoteHosts": [
      {
        "host": "172.16.1.20",
        "port": 10514
      },
      {
        "host": "172.16.1.25"
      }
    ]
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

## 詳細情報の参照

[リモートログホストの設定](#)

# GetSnmPACL

使用することができます `GetSnmPACL` クラスター ノード上の現在の SNMP アクセス権限を取得する方法。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
ネットワーク	クラスター ノードで実行されている SNMP サーバーに対するネットワークとアクセスの種類のリスト。この値は、SNMP v3 が無効になっている場合に存在します。	<a href="#">network</a> 配列
usmユーザー	クラスター ノードで実行されている SNMP サーバーに対するユーザーのアクセスの種類とリスト。この値は、SNMP v3 が有効な場合に存在します。	<a href="#">usmユーザー</a> 配列

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetSnmPACL",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。



```
{
  "id" : 1,
  "result" : {
    "usmUsers" : [
      {
        "name": "jdoe",
        "access": "rouser",
        "secLevel": "priv",
        "password": "mypassword",
        "passphrase": "mypassphrase",
      }
    ]
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

## SnmplInfo の取得

使用することができます `GetSnmplInfo` 現在の簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 構成情報を取得する方法。

### パラメータ



GetSnmplInfo は、Element バージョン 8.0 以降では非推奨です。その[GetSnmpState](#)そして[SnmpACLの設定](#)メソッドは GetSnmplInfo メソッドに代わるものです。

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
ネットワーク	SNMP が有効になっているネットワークとアクセス タイプのリスト。注: ネットワークは、SNMP v3 が無効になっている場合にのみ表示されます。	<a href="#">network</a>

Name	説明	タイプ
有効	<p>クラスター内のノードが SNMP 用に構成されているかどうかを示します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• true</li> <li>• false</li> </ul>	ブーリアン
snmpV3有効	<p>クラスター内のノードが SNMP v3 用に設定されている場合。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• true</li> <li>• false</li> </ul>	ブーリアン
usmユーザー	<p>SNMP v3 が有効になっている場合、クラスターから SNMP のユーザー アクセス パラメータのリストが返されます。これは、ネットワーク パラメータの代わりに返されます。</p>	<a href="#">usmユーザー</a>

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetSnmpInfo",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {
    "enabled" : true,
    "networks" : [
      {
        "access" : "rosys",
        "cidr" : 0,
        "community" : "public",
        "network" : "localhost"
      }
    ]
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

### 詳細情報の参照

- [GetSnmpState](#)
- [SnmpACLの設定](#)

## GetSnmpState

使用することができます `GetSnmpState` SNMP 機能の現在の状態を取得するメソッド。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
有効	<p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• true</li> <li>• false</li> </ul> <p>デフォルト値は false です。クラスター内のノードが SNMP 用に構成されている場合は true を返します。</p>	ブーリアン
snmpV3有効	<p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• true</li> <li>• false</li> </ul> <p>デフォルト値は false です。クラスター内のノードが SNMP v3 用に構成されている場合は true を返します。</p>	ブーリアン

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "GetSnmpState",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {
    "enabled": true,
    "snmpV3Enabled": false
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

### 詳細情報の参照

[SnmpACLの設定](#)

## SnmpTrapInfo を取得する

使用することができます `GetSnmpTrapInfo` 現在の SNMP トラップ構成情報を取得するメソッド。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
トラップ受信者	クラスターによって生成されたトラップを受信するホストのリスト。	<a href="#">snmpトラップ受信者配列</a>
クラスター障害トラップが有効	値 true は、クラスター障害がログに記録されたときに、solidFireClusterFaultNotification がトラップ受信者のリストに送信されるように構成されていることを示します。	ブーリアン
クラスター障害解決トラップが有効	値 true は、クラスター障害が解決されたときに solidFireClusterFaultResolvedNotification がトラップ受信者のリストに送信されるように構成されていることを示します。	ブーリアン
クラスターイベントトラップが有効	値 true は、クラスター イベントがログに記録されたときに、solidFireClusterEventNotification がトラップ受信者のリストに送信されるように構成されていることを示します。	ブーリアン

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例ようになります。

```
{
  "method": "GetSnmpTrapInfo"
  "params": {},
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "clusterEventTrapsEnabled": true,
    "clusterFaultResolvedTrapsEnabled": true,
    "clusterFaultTrapsEnabled": true,
    "trapRecipients": [
      {
        "community": "public",
        "host": "192.168.151.60",
        "port": 162
      },
      {
        "community": "solidfireAlerts",
        "host": "NetworkMonitor",
        "port": 162
      },
      {
        "community": "wakeup",
        "host": "PhoneHomeAlerter",
        "port": 1008
      }
    ]
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6



```

VnYXNzdGF5c2luLnZl\nZ2FzMIIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEA8U+28f
nLKNWEWMR\n6akeDKuehSpS79odLGigI18qlCV/AUY5ZLjqsTjBvTJVRv44yoCTgNrx36U7FH
P4\nt6P/Si0aYr4ovx15wDpEM3Qyy5JPB7JelOB6AD7fmiTweP20HRYpZvY+Uz7LYEFC\nmrgp
GZQF3iOSIcBhtLKE5186JVT6j5dg6yjUGQO352ylc9HXHcn6lb/jyl0DmVNU\nZ0caQwAmIS3J
moyx+zj/Ya4WKq+2SqTAX7bX0F3wHHfXnZlHnM8fET5N/9A+K6lS\n7dg9cyXu4afXcgKy14Ji
NBvqbBjhgJtE76yAy6rThu0xM3jjdkcb9Y8miNzx+AC\nnq+itawIDAQABo4HrMIHoMB0GA1Ud
DgQWBBrvvBRPno5S34zGRhrnDJyTsdnEbTCB\nnuAYDVR0jBIGwMIGtgBRvvBRPno5S34zGRhrn
DJyTsdnEbaGBiaSBhjCBgzELMAkG\na1UEBhMCVVMxCzAJBgNVBAGTAK5WMRUwEwYDVQHFAXW
ZWdhcywgQmFieSEExITAf\nBgNVBAoTGFdoYXQgSGFwcGVucyBpbWZwdhcy4uLjEtMCsGCSqG
S1b3DQEJARYe\nd2hhdGhhcHB1bnNAdmVnYXNzdGF5c2luLnZlZ2FzgkAzBsiFZjff/MwDAYD
VR0T\nBAUwAwEB/zANBgkqhkiG9w0BAQUFAAOCAQEAhVND5s71mQPECwVLFiE/ndtIbnpe\nmMq
o5geQHCHnNlu5RV9j8aYHp9kW2qCDJ5vueZtZ2L1tC4D7Jyfs3714rRolFpX6N\nniebEgAaE5e
WvB6zgiAcMRIKqu3DmJ7y3CFGk9dH0lQ+WYnoO/eIMy0coT26JB15H\nnDEwvdl+DwKxnS1cx1v
ERv51g1gua6AE3tBrlov8q1G4zMJboo3YEwMFwxLkxAFXR\nnHgMoPDym099kvc84B1k7HkDGHp
r4tLfVelDJy2zCWIQ5ddbVpyPW2xuE4p4BGx2B\n7ASOjG+DzUxzwaUI6Jzvs3Xq5Jx8ZAjJDg
l0QoQDWNDoTerBs80nwiouA==\n-----END CERTIFICATE-----\n",
    "details": {
        "issuer":
"/C=US/ST=NV/L=Denver/O=NetApp/emailAddress=test@netapptest.org",
        "modulus":
"F14FB6F1F9CB290356116311E9A91E0CAB9E852A52EFDA1D2C68A0235F2A94257F0146396
4B8EAB138C1BD325546FE38CA809380DAF1DFA53B1473F8B7A3FF4A2D1A62BE28BF1979C03
A44337432CB924F07B25E94E07A003EDF9A24F078FDB41D162966F63E533ECB6041429AB82
9199405DE239221C047B4B284E75F3A2554FA8F9760EB28D41903B7E76CA573D1D71DC9FA9
5BFE3CA5D0399535467471A430026212DC99A8CB1FB38FF61AE162AAFB64AA4C05FB6D7D05
DF01C77D79D99479CCF1F113E4DFFD03E2BA952EDD83D7325EEE1A7D77202B2D78262341BE
A6C18E1809B44EFAC80CBAAD31EED313378E376471BF58F2688DCF117E002ABE8AD6B",
        "notAfter": "2027-03-06T22:50:26Z",
        "notBefore": "2017-03-08T22:50:26Z",
        "serial": "CC1B221598E37FF3",
        "sha1Fingerprint":
"1D:70:7A:6F:18:8A:CD:29:50:C7:95:B1:DD:5E:63:21:F4:FA:6E:21",
        "subject":
"/C=US/ST=NV/L=Denver/O=NetApp/emailAddress=test@netapptest.org"
    }
}
}

```

## バージョン以降の新機能

10.0

## リスト保護ドメインレベル

使用することができます `ListProtectionDomainLevels` ストレージ クラスターの許容度と



回復力のレベルを一覧表示するメソッド。許容レベルは、障害発生時にクラスターがデータの読み取りと書き込みを続行する能力を示し、回復力レベルは、ストレージ クラスターが 1 つ以上の障害から自動的に修復する能力を示します。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータがありません。

## 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
保護ドメインレベル	さまざまな保護ドメイン レベルのリスト。各レベルは、ストレージ クラスターの許容度と回復力に関する情報を提供します。	保護ドメインレベル

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "ListProtectionDomainLevels",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "protectionDomainLevels": [
      {
        "protectionDomainType": "node",
        "resiliency": {
          "protectionSchemeResiliencies": [
            {
              "protectionScheme": "doubleHelix",
              "sustainableFailuresForBlockData": 0,
              "sustainableFailuresForMetadata": 1
            }
          ]
        }
      }
    ]
  }
}
```

```

        },
        "singleFailureThresholdBytesForBlockData": 0,
        "sustainableFailuresForEnsemble": 1
    },
    "tolerance": {
        "protectionSchemeTolerances": [
            {
                "protectionScheme": "doubleHelix",
                "sustainableFailuresForBlockData": 0,
                "sustainableFailuresForMetadata": 1
            }
        ],
        "sustainableFailuresForEnsemble": 1
    }
},
{
    "protectionDomainType": "chassis",
    "resiliency": {
        "protectionSchemeResiliencies": [
            {
                "protectionScheme": "doubleHelix",
                "sustainableFailuresForBlockData": 0,
                "sustainableFailuresForMetadata": 1
            }
        ],
        "singleFailureThresholdBytesForBlockData": 0,
        "sustainableFailuresForEnsemble": 1
    },
    "tolerance": {
        "protectionSchemeTolerances": [
            {
                "protectionScheme": "doubleHelix",
                "sustainableFailuresForBlockData": 0,
                "sustainableFailuresForMetadata": 1
            }
        ],
        "sustainableFailuresForEnsemble": 1
    }
}
]
}
}

```

## バージョン以降の新機能

11.0

### SSL証明書の削除

使用することができます `RemoveSSLCertificate` クラスター内のストレージ ノードのユーザー SSL 証明書と秘密キーを削除する方法。証明書と秘密キーが削除されると、ストレージ ノードはデフォルトの証明書と秘密キーを使用するように構成されます。

#### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

#### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

#### リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method" : "RemoveSSLCertificate",
  "params" : {},
  "id" : 3
}
```

#### 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 3,
  "result" : {}
}
```

## バージョン以降の新機能

10.0

### ネットワーク設定をリセット

使用することができます `ResetNetworkConfig` 個々のノードのネットワーク構成の問題

を解決するのに役立つ方法。この方法は、個々のノードのネットワーク構成を工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "ResetNetworkConfig",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは応答を返しません。

## バージョン以降の新機能

11.0

## 補足Tls暗号をリセットする

使用することができます `ResetSupplementalTlsCiphers` 補足 TLS 暗号のリストをデフォルトに復元する方法。この方法はクラスター全体で使用できます。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "ResetSupplementalTlsCiphers",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {}
}
```

## バージョン以降の新機能

11.3

## クラスター構造の設定

使用することができます `SetClusterStructure` バックアップからストレージ クラスターの構成情報を復元する方法。メソッドを呼び出すときは、復元する構成情報を含む clusterStructure オブジェクトを params パラメータとして渡します。

## パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ
パラメータ	現在のストレージ クラスターの構成情報を含む JSON オブジェクト。	<a href="#">クラスター構造</a>

## 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
結果	非同期結果ハンドル。	非同期ハンドル

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "SetClusterStructure",
  "params": <insert clusterStructure object here>,
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result" : {
    "asyncHandle": 1
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

10.3

## LldpConfig の設定

使用することができます `SetLldpConfig` ストレージ クラスターのリンク層検出プロトコル (LLDP) 設定を構成する方法。

## パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
その他のプロトコルを有効にする	他の検出プロトコル (CDP、FDP、EDP、SONMP) の自動使用を有効にします。	ブーリアン	true	いいえ

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
有効にする	メディア エンドポイント検出 (LLDP-MED) を有効にします。	ブーリアン	false	いいえ
Lldpを有効にする	LLDP を有効または無効にします。	ブーリアン	true	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

Name	説明	タイプ
lldpConfig	新しく変更された設定を含む、現在のストレージ クラスター LLDP 構成に関する情報。	JSONオブジェクト

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "id": 3920,
  "method": "SetLldpConfig",
  "params": {
    "lldpConfig": {
      "enableMed": true
    }
  }
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 3920,
  "result": {
    "lldpConfig": {
      "enableLldp": true,
      "enableMed": true,
      "enableOtherProtocols": true
    }
  }
}
```

## NtpInfo の設定

使用することができます `SetNtpInfo` クラスター ノードで NTP を構成する方法。このインターフェースで設定した値は、クラスター内のすべてのノードに適用されます。NTP ブロードキャスト サーバーがネットワーク上で時間情報を定期的にブロードキャストする場合は、オプションでノードをブロードキャスト クライアントとして構成できます。

### パラメータ



インストールのデフォルトではなく、ネットワーク内部の NTP サーバーを使用するようにしてください。

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
サーバ	各ノードの NTP 構成に追加する NTP サーバーのリスト。	文字列配列	なし	はい
ブロードキャストクライアント	クラスター内のすべてのノードをブロードキャスト クライアントとして有効にします。	ブーリアン	false	いいえ

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

### リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。



```
{
  "method": "SetNtpInfo",
  "params": {
    "servers" : [
      "ntpserver1.example.org",
      "ntpserver2.example.org",
      "ntpserver3.example.org"
    ],
    "broadcastclient" : false
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {}
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

## 保護ドメインレイアウトの設定

使用することができます `SetProtectionDomainLayout` ノードをカスタム保護ドメインに割り当てる方法。

クラスター内のすべてのアクティブ ノードに関する情報を提供する必要があり、非アクティブ ノードに関する情報は提供できません。特定のシャーシ内のすべてのノードは、同じカスタム保護ドメインに割り当てる必要があります。すべてのノードに同じ protectionDomainType を指定する必要があります。ノードやシャーシなどのカスタムではない protectionDomainType は含めないでください。これらのいずれかが指定されている場合、カスタム保護ドメインは無視され、適切なエラーが返されます。



次の構成ではカスタム保護ドメインはサポートされません。

- 共有シャーシを含むストレージクラスター
- 2ノードストレージクラスター

このメソッドは、これらの構成のストレージ クラスターで使用するとエラーを返します。

## パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
保護ドメインレイアウト	各ノードの保護ドメイン情報。	JSONリスト"ノード保護ドメイン"オブジェクト。	なし	はい

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

Name	説明	タイプ
保護ドメインレイアウト	各ノードとそれに関連付けられた保護ドメインのリスト。	JSONリスト"ノード保護ドメイン"オブジェクト。

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```

{
  "id": 1,
  "method": "SetProtectionDomainLayout",
  "params": {
    "protectionDomainLayout": [
      {
        "nodeID": 1,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "Rack-1",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      },
      {
        "nodeID": 2,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "Rack-1",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      },
      {
        "nodeID": 3,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "Rack-2",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      },
      {
        "nodeID": 4,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "Rack-2",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      }
    ]
  }
}

```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "protectionDomainLayout": [
      {
        "nodeID": 1,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "QTF CR2914008D",
            "protectionDomainType": "chassis"
          },
          {
            "protectionDomainName": "Rack-1",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      },
      {
        "nodeID": 2,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "QTF CR291500EA",
            "protectionDomainType": "chassis"
          },
          {
            "protectionDomainName": "Rack-1",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      },
      {
        "nodeID": 3,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "QTF CR291500C3",
            "protectionDomainType": "chassis"
          },
          {
            "protectionDomainName": "Rack-2",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      }
    ]
  }
}
```

```

    },
    {
      "nodeID": 4,
      "protectionDomains": [
        {
          "protectionDomainName": "QTFCR291400E6",
          "protectionDomainType": "chassis"
        },
        {
          "protectionDomainName": "Rack-2",
          "protectionDomainType": "custom"
        }
      ]
    }
  ]
}

```

## バージョン以降の新機能

12.0

## リモートログホストの設定

使用することができます `SetRemoteLoggingHosts` ストレージ クラスター内のノードから集中ログ サーバーへのリモート ログを構成する方法。リモート ログは、デフォルトのポート 514 を使用して TCP 経由で実行されます。この API は既存のログ ホストに追加されません。むしろ、現在存在するものをこの API メソッドによって指定された新しい値に置き換えます。使用できます `GetRemoteLoggingHosts` 現在のログホストが何であるかを判断し、`SetRemoteLoggingHosts` 現在のログホストと新しいログホストの必要なリストを設定します。

### パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
リモートホスト	ログ メッセージの受信者であるホストのリスト。	ログサーバー配列	なし	はい

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "id": 1,
  "method": "SetRemoteLoggingHosts",
  "params": {
    "remoteHosts": [
      {
        "host": "172.16.1.20",
        "port": 10514
      },
      {
        "host": "172.16.1.25"
      }
    ]
  }
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {}
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

## 詳細情報の参照

[リモートログホストの取得](#)

## SnmpACLの設定

使用することができます `SetSnmpACL`` クラスター ノードで SNMP アクセス権限を構成する方法。このインターフェースで設定した値はクラスタ内のすべてのノードに適用され、渡された値は以前の呼び出しで設定されたすべての値を置き換えます。

``SetSnmpACL``。また、このインターフェースで設定された値は、``SetSnmpInfo``方法。

## パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
ネットワーク	クラスター ノード で実行されている SNMP サーバーに対 するネットワークと アクセスの種類のリ スト。可能なネット ワーク値について は、SNMP ネットワ ーク オブジェクト を参照してくださ い。 SNMP v3 が無 効になっている場 合は、このパラメータ は必須です。	network	なし	いいえ
usmユーザー	クラスター ノード で実行されている SNMP サーバーに対 するユーザーのアク セスの種類とリス ト。 SNMP v3 が有 効になっている場 合、このパラメータ は必須です。	usmユーザー	なし	いいえ

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "SetSnmpACL",
  "params": {
    "usmUsers" : [
      {
        "name": "jdoe",
        "access": "rouser",
        "secLevel": "priv",
        "password": "mypassword",
        "passphrase": "mypassphrase",
      }
    ]
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {}
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

## 詳細情報の参照

[SnmpInfo の設定](#)

## SnmpInfo の設定

使用することができます SetSnmpInfo ` クラスタ ノードで SNMP バージョン 2 およびバージョン 3 を構成する方法。このインターフェースで設定した値はクラスタ内のすべてのノードに適用され、渡された値は以前の呼び出しで設定されたすべての値を置き換えます。 `SetSnmpInfo。

## パラメータ





SetSnmplInfo は、Element バージョン 6.0 以降では非推奨です。使用 **Snmp** を有効にするそして **SnmpACL** の設定代わりにメソッドを使用します。

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
ネットワーク	クラスター ノードで実行されている SNMP サーバーに対するネットワークとアクセスの種類のリスト。SNMPを参照してください <b>network</b> 可能な値のオブジェクト。このパラメータは SNMP v2 のみに必要です。	<b>network</b> 配列	なし	いいえ
有効	true に設定すると、クラスター内の各ノードで SNMP が有効になります。	ブーリアン	false	いいえ
snmpV3有効	true に設定すると、クラスター内の各ノードで SNMP v3 が有効になります。	ブーリアン	false	いいえ
usmユーザー	SNMP v3 が有効になっている場合は、ネットワーク パラメータの代わりにこの値を渡す必要があります。このパラメータは SNMP v3 のみに必要です。	<b>usmユーザー</b>	なし	いいえ

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## SNMP v3 を有効にしたリクエストの例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "SetSnmInfo",
  "params": {
    "enabled": true,
    "snmpV3Enabled": true,
    "usmUsers": [
      {
        "name": "user1",
        "access": "rouser",
        "secLevel": "auth",
        "password": "namex1",
        "passphrase": "yourpassphrase"
      }
    ]
  },
  "id": 1
}
```

## SNMP v2 を有効にしたリクエストの例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "SetSnmInfo",
  "params": {
    "enabled": true,
    "snmpV3Enabled": false,
    "networks": [
      {
        "community": "public",
        "access": "ro",
        "network": "localhost",
      }
    ]
  },
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 1
  "result" :{
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

## SnmpTrapInfo の設定

使用することができます `SetSnmpTrapInfo` クラスターの SNMP 通知 (トラップ) の生成を有効または無効にし、通知を受信するホストのセットを指定する方法。それぞれに渡す値は `SetSnmpTrapInfo` メソッド呼び出しは、以前の呼び出しで設定されたすべての値を置き換えます。

### パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ
トラップ受信者	ストレージ クラスターによって生成されたトラップを受信するホストのリスト。トラップ タイプのいずれかが有効になっている場合は、少なくとも 1 つのオブジェクトが必要です。このパラメータは、ブールパラメータが true に設定されている場合にのみ必要です。(デフォルト値はありません。必須ではありません。	snmpトラップ受信者配列
クラスター障害トラップが有効	true に設定すると、クラスター障害がログに記録されたときに、対応するクラスター障害通知が設定されたトラップ受信者リストに送信されます。(デフォルト値: false。必須ではありません。	ブーリアン
クラスター障害解決トラップが有効	true に設定すると、クラスター障害が解決されたときに、対応するクラスター障害解決通知が、構成されたトラップ受信者のリストに送信されます。(デフォルト値: false。必須ではありません。	ブーリアン

Name	説明	タイプ
クラスターイベントトラップが有効	true に設定すると、クラスター イベントがログに記録されたときに、対応するクラスター イベント通知が構成されたトラップ受信者のリストに送信されます。(デフォルト値: false。必須ではありません。)	ブーリアン

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "SetSnmptTrapInfo",
  "params": {
    "clusterFaultTrapsEnabled": true,
    "clusterFaultResolvedTrapsEnabled": true,
    "clusterEventTrapsEnabled": true,
    "trapRecipients": [
      {
        "host": "192.30.0.10",
        "port": 162,
        "community": "public"
      }
    ]
  },
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {}
}
```

## SSL証明書の設定

使用することができます `SetSSLCertificate` クラスター内のストレージ ノードのユーザー SSL 証明書と秘密キーを設定する方法。



API を使用した後は、管理ノードを再起動する必要があります。

### パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
証明書	証明書の PEM エンコードされたテキスト バージョン。 注: ノードまたはクラスター証明書を設定する場合、証明書には <code>serverAuth</code> の <code>extendedKeyUsage</code> 拡張機能が含まれている必要があります。この拡張機能により、一般的なオペレーティング システムとブラウザで証明書をエラーなく使用できるようになります。拡張機能が存在しない場合、API は証明書を無効として拒否します。	string	なし	はい
秘密鍵	秘密鍵の PEM エンコードされたテキスト バージョン。	string	なし	はい

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例ようになります。

```
{
  "method" : "SetSSLCertificate",
  "params" : {
    "privateKey": "-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----
\nMIIIEowIBAAKCAQEA8U+28fnLKQNWEMMR6akeDKuehSpS79odLGigI18qlCV/AUY5\nnZLjqsT
jBvTJVRv44yoCTgNrx36U7FHP4t6P/Si0aYr4ovx15wDpEM3Qyy5JPB7Je\nlOB6AD7fmiTweP
20HRYpZvY+Uz7LYEFCmrgpGZQF3iOSIcBHtLKE5186JVT6j5dg\n6yYjUGQO352ylc9HXHcn6lb
/jy10DmVNUZ0caQwAmIS3Jmoyx+zj/Ya4WKq+2SqTA\nX7bX0F3wHHfXnZlHnM8fET5N/9A+K6
lS7dg9cyXu4afXcgKy14JiNBvqbBjhGJtE\n76yAy6rTHu0xM3jjdkcb9Y8miNzxF+ACq+itaw
IDAQABAOIBAH1j1IZr6/sltqVW\n00qVC/49dyNu+KWSVsq92ti9rFe7hBPueh9gklh78hP9Qli
tLkir3YK4GFsTFUMux\n7z1NRCxA/4LrmLSkAjW2kRXDfVl2bwZq0ua9NefGw92O8D2OZvbuOx
k7Put2p6se\nnfgNzSjf2SI5DIX3UME5dDN5FByu52CJ9mI4U16ngbWln2wc4nsxJg0aAEkzB7w
nq\nnt+Am5/Vu1LI6rGiG6oHEW0oGSuH1lesIyXXa2hqqU+1+iF2iGRMTiXac4C8d11NU\nnWGIR
CXFJAmsAQ+hQm7pmtsKdEqumj/PIoGXf0BoFVEWaiJIMEgnfuLZp8IelJQXn\nnSFJbk2ECgYEA
+d5ooU4thZXylWHUZqomaxyzOruA1T53UeH69HiFTrLjvfwuaiqj\nnlHzPlhms6hxexwzldzAp
gog/NOM+2bAc0rn0dqvtV4doejt1DZKRqrNCf/cuN2QX\nnjaCJC1CWau3sEHCckLOhWeY4HaPS
oWq0GKLMkKkDChB4nWUYg3gSWQkCgYEA9zuN\nnHW8GPS+yjixeKXmkK00x/vvxzR+J5HH5znaI
Hss48THyhzXpLr+v30Hy2h0yAlBS\nnny5Ja6wsomb0mVe4NxVtVawg2E9vVvTa1UC+TNmFBBuL
RPfjcnjDerrSuQ5lYY+M\nnC9MJtXGfhp//G0bzwsRzZxOBsUJb15tpaZIs9MCgYAJricpkKjM
0x1Z1jdVXsos\nnPilnbho4qLngrzuUuxKXEPEnzBxUOqCpwQgdzZLYYw788TCVVIVXLEYem2s0
7dDA\nnDTo+WrzQNkvC6IgqtXH1RgqegIoG1VbgQsbsYmDhdaQ+os4+AoeQXw3vgAhJ/qNJ\nnjQ
4Ttw3ylt7FYkRH26ACWQKBgQC74Zmf4JuRLAo5WSZFxpcmMvtnlvdutqUH4kXA\nnzPssy6t+QE
La1fFbAXkZ5PglITK752aiaX6KQNG6qRsA3VS1J6drD9/2AofOQU17\nn+jOkGzmmoXf49Zj3iS
akwg0ZbQNGXNxEsCAUr0BYAobPp9/fB4PbtUs99fvtocFr\nnjS562QKBgCb+JMDP5q7jpUuspj
0obd/ZS+MsomE+gFAMBJ71KFQ7KuoNezNFO+ZE\nn3rnR8AqAm4VMzqRaHS2PWNe2H14J4hKu96
qNpNHbsW1NjXdAL9P7oqQIrhGLVdhX\nnInDXvTgXMDMoet4BKnfteLrXFKHgGqXJoczq4JWzGS
IHNgvkrH60\nn-----END RSA PRIVATE KEY-----\n",
    "certificate": "-----BEGIN CERTIFICATE-----
\nMIIIEdZCCA1+gAwIBAgIJAMwbIhWY43/zMA0GCSqGSIb3DQEBBQUAMIGDMQswCQYD\nnVQQGEw
JVUzELMAkGA1UECBMCTlYxFTATBgNVBACUUDFZlZ2FzLCBCYXJ5J5ITEhMB8G\nnA1UEChMYV2hhdc
BIYXBWZW5zIGluIFZlZ2FzLi4uMS0wKwYJKoZIhvcNAQkBFh53\nnaGF0aGFwcGVuc0B2ZWdhc3
N0YXlzaW4udmVnYXNwHhcnMTcwMzA2MjI1MDI2Whcn\nnMjcwMzA2MjI1MDI2WjCBGzELMAkGA1
UEBhMCVVMxCzAJBgNVBAGTAk5WMRUwEwYD\nnVQQHFAXWZWhcywgQmFieSExITAfBgNVBAoTGF
doYXQgSGFwcGVucyBpbWZWhd\nncy4uLjEtMCSGCSqGSIb3DQEJARYed2hhdGhhcHB1bnNAdm
VnYXNzdGF5c2luLnZl\nnZ2FzMIIBIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEA8U+28f
nLKQNWEMMR\nn6akeDKuehSpS79odLGigI18qlCV/AUY5ZLjqsTjBvTJVRv44yoCTgNrx36U7FH
P4\nt6P/Si0aYr4ovx15wDpEM3Qyy5JPB7JelOB6AD7fmiTweP20HRYpZvY+Uz7LYEFC\nnmrgp
GZQF3iOSIcBHtLKE5186JVT6j5dg6yYjUGQO352ylc9HXHcn6lb/jy10DmVNU\nnZ0caQwAmIS3J
moyx+zj/Ya4WKq+2SqTAX7bX0F3wHHfXnZlHnM8fET5N/9A+K6lS\nn7dg9cyXu4afXcgKy14Ji
NBvqbBjhGJtE76yAy6rTHu0xM3jjdkcb9Y8miNzxF+AC\nnq+itawIDAQABO4HrMIHoMB0GA1Ud
DgQWBBrvvBRPno5S34zGRhrnDJyTsdnEbTCB\nnuAYDVR0jBIGwMIGtgBRvvBRPno5S34zGRhrn
DJyTsdnEbaGBiaSBhjCBGzELMAkG\nnA1UEBhMCVVMxCzAJBgNVBAGTAk5WMRUwEwYD\nVQQHFAXW
```

```
ZWdhcywgQmFieSExITAf\nBgNVBAoTGFdoYXQgSGFwcGVucyBpbWZhdhcy4uLjEtMCsGCsG
SIb3DQEJARYe\nd2hhdGhhcHB1bnNAdmVnYXNzdGF5c2luLnZlZ2FzggkAzBsiFZjff/MwDAYD
VR0T\nBAUwAwEB/zANBgkqhkiG9w0BAQUFAAOCAQEAhVND5s71mQPECwVLfiE/ndtIbnpe\nMq
o5geQHCHnNlu5RV9j8aYHp9kW2qCDJ5vueZtZ2L1tC4D7Jyfs3714rRolFpX6N\niebEgAaE5e
WvB6zgiAcMRIKqu3DmJ7y3CFGk9dH0lQ+WYnoO/eIMy0coT26JB15H\nnDEwvdl+DwKxnS1cx1v
ERv51g1gua6AE3tBrlov8q1G4zMJboo3YEwMFwxLkxAFXR\nHgMoPDym099kvc84B1k7HkDGHp
r4tLfVelDJy2zCWIQ5ddbVpyPW2xuE4p4BGx2B\n7ASOjG+DzUxzwaUI6Jzvs3Xq5Jx8ZAJDg
l0QoQDWNDoTeRBsz80nwiouA==\n-----END CERTIFICATE-----\n"

    },
    "id" : 2
}

```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id" : 2,
  "result" : {}
}
```

## バージョン以降の新機能

10.0

## SnmpSendTestTraps

`SnmpSendTestTraps` クラスターの SNMP 機能をテストできます。このメソッドは、現在構成されている SNMP マネージャーにテスト SNMP トラップを送信するようにクラスターに指示します。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

Name	説明	タイプ
ステータス	テストのステータス。	string

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "SnmpSendTestTraps",
  "params": {},
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "status": "complete"
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

9.6

## テストアドレスの可用性

使用することができます `TestAddressAvailability` ストレージ クラスター内のインターフェイスで特定の IP アドレスが使用されているかどうかを確認する方法。

## パラメータ

このメソッドには次の入力パラメータがあります。

Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
インタフェース	ターゲット ネットワーク インターフェイス (eth0、Bond10G など)。	string	なし	はい
address	ターゲット インターフェイスでスキャンする IP アドレス。	string	なし	はい



Name	説明	タイプ	デフォルト値	必須
仮想ネットワークタグ	ターゲット VLAN ID。	integer	なし	いいえ
timeout	ターゲット アドレスをテストするためのタイムアウト (秒)。	integer	5	いいえ

## 戻り値

このメソッドには次の戻り値があります。

Name	説明	タイプ
address	テストされた IP アドレス。	string
使用可能	要求された IP アドレスが使用中の場合は true、そうでない場合は false です。	ブーリアン

## リクエスト例

このメソッドのリクエストは次の例のようになります。

```
{
  "method": "TestAddressAvailability",
  "params": {
    "interface": "Bond10G",
    "address": "10.0.0.1",
    "virtualNetworkTag": 1234
  }
}
```

## 応答例

このメソッドは、次の例のような応答を返します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "address": "10.0.0.1",
    "available": true
  }
}
```

## バージョン以降の新機能

11.0

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。